学校法人 松翠学園
滋賀文教短期大学
SHIGA BUNKYO JUNIOR COLLEGE

これからの社会科の指導について～社会科の見方・考え方の育成～

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松宮, 孝明 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32125/00000079

これからの社会科の指導について
―社会科の見方・考え方の育成―

松宮　孝明

抄録

学習指導要領が改訂され、新たな視点でこれからの社会科教育を行っていかなければならない。そこで、改訂の主旨を概観し、授業実践をもとに具体的に考察した。子どもたちにつけたい力や見方・考え方等を明確にし、思考力・判断力・表現力等を育成する社会科の授業を工夫することで、子どもたちの学び方が主体的、対話的で深い学びになり、学力向上につながった。

キーワード　学習指導要領、社会科教育、主体的・対話的で深い学び、資質・能力の育成、社会的事象の見方・考え方

Ⅰ　はじめに（研究の背景と主題）

学習指導要領が改訂され、新たな視点で社会科教育の改善が求められる。

そこで、今回の改訂の主旨を概観し、中堅教員の授業実践を指導した経験をもとに、具体的なこれからの社会科教育について考察する。

まず、第１に、中央教育審議会答申で、小学校社会科における具体的な改善事項について以下のように示された。

〇小学校社会科においては、世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるよう教育内容を見直すとともに、自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導の充実、少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容を見直すなどの改善を行う。

〇小学校社会科においては、これまで第４学年から配布されていた「教科用図書　地図」を第３学年から配布するようにし、グローバル化などへの対応を図っていく。

そのうえで、今回の改訂のポイントは、大きくは以下の４項目である。

１　目標が資質・能力の３つの柱で整理された。社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のように養う。

（１）地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

（３）社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理

解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

2　①地理的環境、②歴史、③現代社会の仕組みや働きに内容が区分された。社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。こした見方・考え方を働かせて、社会的事象の特色や意味などを考えたり社会への関わり方を選択・判断したりする。

具体的に、第３学年の内容については、以下のように変わった。（（２）地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。ア…次のような知識及び技能を身に付けること。（ア）生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関りをもって行われていることを理解すること。（ウ）見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。イ…次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。（ア）仕事の種類や分布、仕事の行程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。以下、略）

3　新たな事項が内容の取扱いに規定された。

①地図帳の扱い…例として、第３学年の内容（１）「「白地図などにまとめる」際に、教科用図書（地図帳）を参照し、方位や主な地図記号について扱うこと。」

②選択・判断する、多角的に考える…例として、第４学年の内容（２）「ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちができることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」第５学年の内容（２）「消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。」

③カリキュラムマネジメント…例として、第３学年の内容（１）「アの（ア）については、学年の導入で扱うこととし、「自分たちの市」に重点を置くよう配慮すること。」

4　授業改善について

①単元などの内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善を目指す。

②多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動の一層の充実を目指す。

③博物館や資料館の活用と共に、専門家や関係者、関係の諸機関との連携を充実させる。

以上をもとに、中堅教員の指導をもとにまとめる研究主題を、「これからの社会科の指導について」とし、副題を「社会科の見方・考え方の育成」としたい。

Ⅱ　研究の概要

１．研究の動機

学習指導要領が改訂され、新たな視点で社会科教育の改善が求められる。そこで、中堅教員の社会科の授業実践をもとに、特に社会科の見方・考え方に焦点を当てて、これからの社会科の指導についてまとめたい。

２．研究の目的および仮説

つけたい力、見方・考え方等を明確にし、思考力・判断力・表現力等を育成する社会科の授業を工夫することで、児童の学び方が主体的、対話的で深い学びになり、学力向上につながるものと考える。

Ⅲ　実践研究の方法と実際（中堅教員の研究への指導をもとに）

（１）中堅教員の研究

１．単元名　　第４学年　『自然災害から守る人と私』

２．指導に寄せて

（ⅰ）児童観

昨年度、子どもたちは火災や事故について学習を進め、様々な立場の人が私たちの生活を守ってくれていることを学んでいる。しかし、梅雨時期に入り、雨天が続く中、教室にまで雨が打ち付ける音が聞こえるときがあり、不安になって外を見る子どももいる。また、近年、自然災害の中でも水害による被害は毎年のように日本各地で起こり、不安を感じている子どもも多い。実際、前単元の「わたしたちの滋賀県」では、「（琵琶湖の周りは土地が低いところが多いことから）水害が起きやすいのではないか。」「（山間部では）土砂災害も心配だ。」と発言する子どももいた。マンションに住む子どもも多いので、洪水になっても水は届かないから大丈夫と考えている子どももいるが、実際は近隣マンションのいくつかのロビーや階段は避難場所として指定されているので他人ごとではないのが現実である。

（ⅱ）教材観

日本国内においては様々な自然災害が起きている。地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などである。その中でも、子どもたちの関心度が高く、かつ近年被害が多くある風水害（豪雨、洪水、崖崩れや土石流などの土砂災害、突風や竜巻などによる災害）を中心に取り上げて学習する。

滋賀県内を見ると、H25 年９月の台風 18 号（特別警報発令）、H29 年８月の台風５号、H30 年９月の台風 21 号などにおいて甚大な被害が出た。草津市では大きな被害は少ないが、台風の進路や雨量などによっては草津市に住む子どもたちも他人ごととしては捉えていられない。この切実感を生かして学習を進められると期待できる。

草津市での水害の被害は、かつて本校から見える距離にある草津川は全国にも知られる天井川で、氾濫が度々あり、大きな被害をもたらすこともあった。しかし、現在では草津川放水路に水を流して、学校の近くの旧河川は公園となっている。草津川放水路事業のような未然に水害を減らすような取組を行う市役所のはたらきや、台風接近時の消防署や消防団のはたらきなど、様々な機関が連携して私たちの安全な生活を支えていることを取り上げる。単元の最初は不安を感じる子どもたちもそういった人々のはたらきや連携を学び、自分自身にできる取組を具体的に考えることで、安心を感じられるような学習展開ができるのではないかと考える。

（ⅲ）指導観

指導にあたっては、３つのことを大切にする。１つ目は、自然災害の様子について、具体的に掴むためにも過去の県内

の風水害発生時のニュース動画や排水装置をしようとしている動画、滋賀県水害情報発信サイトの写真など、視覚的に被害や状況がわかる資料を活用する。使用する際には、子どもたちにとってショックの大きすぎる動画や写真は扱わないように留意する。

２つ目は、水害に対する怖さの度合いを数値化させて、毎時間の振り返りを書くようにする。風水害から誰が、どのようにしてわたしたちを守るのだろうかということが､学習を通して分かっていくことで､子どもたちの怖さの度合いが減っていくだろうが､全員が０％にならないところから､自分たちも動いたり準備したりする必要性へと結び付けていきたい。

３つ目は、単元のまとめとして発信をする学習活動を取り入れる。この単元では学習したことをもとに、自分の生活を見直したり、周囲で自分たちの安全を守る人がいることを知って安心したりすることも大切だが、本学習を行った自分たちだからこそできることを考えさせ、学習したことを再構成させてまとめて発信できるようにしたい。その際、ルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う。学習を進めながらも、目指す姿をはっきりさせて、発信する内容をどう評価するのか、そのためにどのような学習活動を取り入れるのかを考える手立てとなるからである。

４．単元目標

・自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した滋賀県の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査を行ったり、地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、その働きと関連付けて考え、関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、地域社会の一員としてできることを考えようとする態度を養う。

５．評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・県内で過去に発生した自然災害、関係機関の協力などについて、地図や年表、資料などで調べ、災害から人々を守る活動の様子を理解している。 ・調べたことを関係図や分などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し様々な備えをしていることを理解している。	・県内で過去に発生した自然災害、関係機関の協力などに着目して問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ・災害から人々を守る活動と人々の生活とを関連付けて、その活動の働きを考え、適切に表現している。	・自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てて学習問題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・学習したことをもとにして、地域で起こりうる災害を想定し、地や自分たちの安全を守るためにすべきことやできることを考えようとしている。

６．指導計画（全21時間）

第１次　滋賀県の自然災害について捉え、学習問題を設定する（２時間）

①日本は自然災害が多いことを捉え、滋賀県の状況に関心を寄せる。

②③滋賀県の自然災害について年表から調べ、水害で困ることを写真から考え、学習問題を設定する。

学習問題「風水害から誰が、どのようにしてわたしたちを守るのだろうか」

第２次（８時間）

④水害が起きたときにどのような働きをするのか知り、消防署の人がどのような装備や準備をしているのか、写真から意図を考える。

⑤消防署の人の待機人数を知り、消防署以外にどのような人が働くのか考え、消防団の人の活動について考える。

⑥水害発生したときに、早期発見するためのドローンの活用について、写真から機能を考える。…本時

⑦水害を未然に防ぐ取組の中の放水路について、地図から考える。

⑧水害発生時の情報発信や収集について、市や県なども協力していることを知る。

⑨避難場所としての学校の役割について、防災倉庫の中を見学して知る。

第３次（６時間）

⑩単元当初に感じた安心の度合いについて、これまで学習してきたことをふりかえり、どう変容したか交流する。その中で、いまだ不安に感じることについて、どうすべきか考える。そして、自分たちにできることを考える。

⑪⑫学んだことからみんなに知らせる必要のあることをまとめ、防災マップやポスターなどに表し、伝えたい人に発信する。

７．本時の目標

・ドローンの写真をタブレットで見て、ドローンをどのように活用するのか、意図と合わせて考え、消防署の人が私たち命を守ることを大切にしていることを知ることができる。

８．本時の展開

学習活動と児童の発言（・）	指導上の留意点（・）と力点（〇）	評価の観点・方法
１．2019年から導入されたS-SAT（ドローン）の写真１枚を見て、どんな活用ができそうか予想を話し合い、学習の見通しを持つ。 ２．写真を複数枚タブレットで見て、どのような活動をしているのか調べ、活動の具体を考える。 ３．考えた機能を交流するとともに、なぜそのような機能が役に立つのか考えを深める。 早く・正しく 「山がどう崩れているのか空から分かりやすくする。」 「白黒の写真は、助けを求めている人を見つけやすくするため。」 「空を飛んでいくから早く現場につく。」 「必要なもの（うきわや食料・水など）を届けることができる。」 「救助を待っている人も見つけやすい（空なので）。」 「ヘリコプターよりも早く手軽に使える。」	・ドローンにカメラが付いていることにも気づかせ、ついているものには意味がありそうだと、写真から考えてみようという意欲を喚起する。 ・タブレットを活用することで、７枚の写真をテンポよく、自分のペースで閲覧でき、拡大や縮小をして、知りたい情報を自分で収集できるようにする。 〇機能については →「早く・正しく」と「安全に」の２つに分けて板書する。それによって、救助する側の思いに気づかせる。特に、「安全に」では、救助される側にとってだけの安全か問い直し、救助する側にとっての安全も意識していることを捉えさせる。	ドローンの写真をタブレットで見て、ドローンをどのように活用するのか、意図とあわせて考えてノートに記述している（思・判・表）

安全に 「山の中に行くと自分も巻き込まれるかもしれない。」 「浮き輪を渡すことで、消防隊員も安全に助けることにつながる。」 「遠い所へ流されても、助けに行ける。」 「ヘリコプターなどでは、近づきにくい場所にも行ける。」 ４．湖南広域消防の動画を見て、S-SAT の機能やねらいについて確認する。 ５．自分の怖さメーターの数値を書き、その理由をノートに書く。	・自分たちの調べて考えたことが正しいかどうか確かめるように声かけをし、ただ眺めるだけの時間にしない。 ・動画で分からないことに関しては、消防署の人に聞くことができると伝える。 ・書きにくい子どもがいたら、前回と比較しながら上がったか下がったかを問い、そのわけを言語化させて書くようにする。	消防署の人が私たちの命を守ることを大切にしていることに触れてふり返れている（思・判・表）

Ⅳ　考察（成果と今後の課題）

（１）授業構想から（大切にした３つのこと）

①具体的な動画や写真を活用した。…「過去に県内で発生したものを選択して取り上げること」と示されていたり、「地図帳など各種の具体的な資料を活用することは大事」とあることから、本単元の指導計画や本児の展開は合致している。

②水害に対する怖さの度合いを数値化させて、毎時間の振り返りをさせた。…「グローバル化」や「平和を希求する等、公民としての資質」を育成することともに、「自然災害」などの問題を取り上げ、地域の人々（地方公共団体等も含む）の働きや地域の人々の工夫・努力を重視することがうたわれているので、自分事としてとらえやすくしていてよい。

③単元のまとめとして、発信する学習活動を取り入れた。…防災マップやポスターなどを作成し、伝えたい人を設定して発信していく学習活動は、豊かな目的意識と相手意識が明確で、意欲的な学習活動になった。

Ⅴ　まとめ（研究の結論）

１．中堅教員への指導から得られたもの

＜社会科の見方・考え方の育成＞

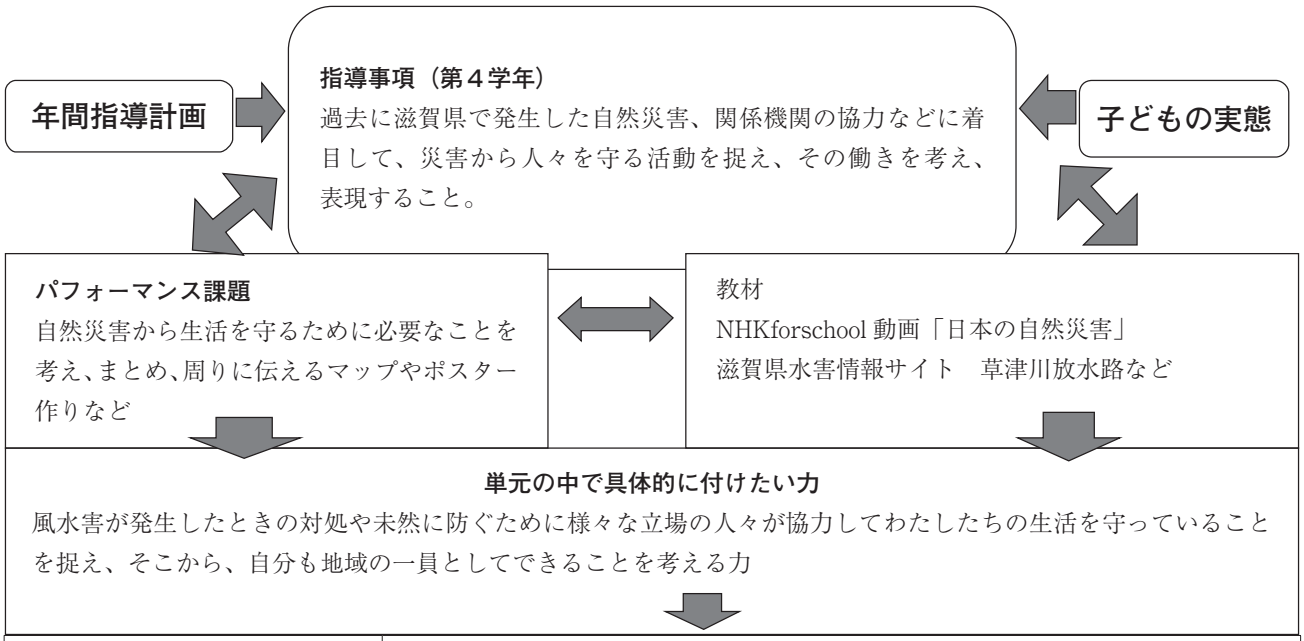
・自然災害等に関して、「くらしを守る」「命を守る」ことについて、「早く・正しく」ということと「安全に」をキーワー

ドにして、社会事象の見方・考え方を整理したり、広げたりできていることは、評価に値する。自校や近隣校、近隣市町に広めてほしい。

＜ルーブリックを作成してのパフォーマンス評価＞

・以下に示す単元構想図のように、学習の流れをルーブリックにまとめ、指標を設定して振り返ったり評価しようとしていることも、斬新で評価に値する。

単元構想図



	思考力、判断力、表現力等
よくできる	・防災マップやポスターなど発信する成果物に、災害から人々を守る活動と人々の生活とを関連付けて、その活動の働きを考え、表現している。 その際、相手の立場を考えて、必要性のある情報が何か考え、伝えようとしている。または、一方向からの視点ではなく、複数の視点から災害から人々を守る活動について記載している。 （高齢の祖父母へ…おじいちゃんやおばあちゃんたちの地域でも、台風が近づいてきたら、消防署の人が人数を増やして準備して、避難の仕方を教えてくれる。でも、自分たちでも早く避難ができるように、情報を確認するようにしよう。） （消防署の人だけでなく、地域の消防団の人や市役所の人たちも協力して避難について呼び掛けてくれる。色々な人が私たちの生活を守ってくれているのです。だから、安心して、落ち着いて避難できるようにしましょう。）
できる	・防災マップやポスターなど発信する成果物に、災害から人々を守る活動と人々の生活とを関連付けて、その活動の働きを考え、表現している。 （消防署の人たちは工夫してみんなの安全を考えて活動しているし、助けてくれる。だから、私たちも水害が発生した時のことを考えて早く避難できるように準備しておこうなど。）
がんばろう	・防災マップやポスターなど発信する成果物に、災害から人々を守る活動と人々の生活とを関連付けて、その活動の働きを考えて表現していない。

第一次	第二次	第三次
①日本は自然災害が多いことを捉え、滋賀県の状況に関心を寄せる。 ②③滋賀県の自然災害について年表から調べ、水害で困ることを具体的に写真から考え、学習問題を設定する。 学習問題例 「風水害から誰が、どのようにしてわたしたちを守るのだろうか」	④水害が起きたときにどのような働きをするのか知り、消防署の人がどのような装備や準備をしているのか、写真から意図を考える。 ⑤消防署の人の待機人数を知り、消防署以外にどのような人が働くのか考え、消防団の人の活動について考える。 ⑥水害発生したときに、早期発見するためのドローンの活用について、写真から機能を考える。 ⑦水害を未然に防ぐ取組の中の放水路について、地図から考える。 ⑧水害発生時の情報発信や収集について、市や県なども協力していることを知る。 ⑨避難場所としての学校の役割について、防災倉庫の中を見学して知る。	⑩単元当初に感じた不安について、これまで学習してきたことをふりかえり、どう変容したか交流する。その中で、いまだ不安を感じることについて、どうすべきか考える。そして、自分たちにできることを考える。 ⑪学んだことからみんなに知らせる必要のあることをまとめ、防災マップやポスターなどに表し、発信する。

２．これからの社会科教育の目指すもの

＜中堅教員が作成＞

１．社会科の授業づくりについて、後進のために「社会科の学習って何で必要なの？」を作成された。これも、まわりの教員に役に立つものである。広めたい。

２．社会科の学習って何で必要なの？

「一票を投じる力」を育てるため！

→そのためにも、多角的な考え（複数の立場や意見を踏まえて考えること）と社会への関わり方方を選択・判断することが肝要と考えています。

→社会科で扱う人の工夫や努力（ミクロ）と社会的事象の相互の関連（マクロ）を掴むことが大切。将来、自分の都合や観点からのみしか一票を投じない人、一票を投じることへの意義や関心を抱かない人とならないように。。。

３．教材研究について…社会科は教材から考えないといけないから (-_-) 教科書が使いにくい。。。

（１）教師自身が「面白い！」と感じることが大事→面白い授業への一歩

（2）学習指導要領をもとに、「その学年で」「その内容が」「適切か」を検討。

→授業で子どもに考えさせる・授業で子どもに教える（与える）・授業では扱うが、質問などが出た場合に答えられるようにする・授業で扱ってはいけない（左右の思想など踏まえ）

（3）単元の大きな目標をもとに、組み込む（時間数に配慮）

4．授業において大切にしていること

（1） 流れ・問題解決的な学習

問題解決学習でも系統学習でもない。

問題解決的な学習。

やりたいことをやるのではない。

教師からの一方的な教授ではない。

（2） 難しい…けれど、やりがいはあります。授業を作り上げたとき、その授業は自分のオリジナルで宝物になります。ぜひ、社会科の世界へ(^^)/

＜社会科における思考力、判断力、表現力＞と＜社会科における学びに向かう力、人間性＞

最後に、＜社会科における思考力、判断力、表現力＞と＜社会科における学びに向かう力、人間性＞について考察して研究のまとめとしたい。

＜社会科における思考力、判断力、表現力＞…

小学校社会科における「思考力、判断力」は、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する力である。

・「社会的事象の特色」とは、他の事象等と比較・分類したり総合したりすることで捉えることのできる社会的事象の特徴や傾向、そこから見いだすことのできるよさなどであり、それは、仕事や活動の特色、生産の特色、地理的環境の特色などに表せるものである。

・「社会的事象の相互の関連」とは、比較したり関連付けたりして捉えることのできる事象と事象のつながりや関わりなどであり、それは、生産・販売する側の工夫と消費者の工夫との関連、関係機関の相互の連携や協力、国会・内閣・裁判所の相互の関連などに表されるものである。

・「社会的事象の意味」とは、社会的事象の仕組みや働きなどを地域の人々や国民の生活と関連付けることで捉えることができる社会的事象の社会に働き、国民にとっての役割などであり、それは、産業が国民生活に果たす役割、情報化が国民生活に及ぼす影響、国民生活の安定と向上を図る政治の働きなどに表されるものである。

・「多角的に考える」とは、子どもたちが複数の立場や意見を踏まえて考えることを指している。

・「社会に見られる課題」とは、地域社会における安全の確保や、良好な生活環境の維持、資源の有効利用、自然災害への対策、伝統や文化の保存・継承、国土の環境保全、産業の持続的な発展、国際平和の構築など現代社会に見られる課題を想定したものである。

・「解決に向けて」とは、選択・判断の方向性を示しており、よりよい社会を考えることができるようにすることを目指している。

・「社会への関わり方を選択・判断する」とは、社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、習得した知識などの中から自分たちに協力できることなどを選び出し、自分の意見や考えとして決めるなどして、判断することである。

・小学校社会科で養う「表現力」とは、考えたことや選択・判断したことを説明する力や考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。その際、資料等を用いて作品などにまとめたり図表などに表したりする表現力や、調べたことや理解したことの言語による表現力を育成することも併せて考えることが大切である。

・「説明する」とは、物事の内容や意味をよく分かるように解き明かすことであり、「説明する力」については、根拠や理由を明確にして、社会的事象について調べて理解したことやそれに対する自分の考えなどを論理的に説明できるように養うことが大切である。「議論する」とは、互いに自分の主張を述べ合い論じ合うことであり、「議論する力」については、他者の主張につなげたり、互いの立場や根拠を明確にして討論したりして、社会的事象についての自分の考えを主張できるように養うことが大切である。

＜社会科における学びに向かう力、人間性＞…

・小学校社会科における「学びに向かう力、人間性」は、「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」と、「多角的な思考や理解を通して」涵養される自覚や愛情などである。「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」は、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度などである。「多角的な思考や理解を通して」涵養される自覚や愛情などは、各学年の内容に応じて涵養される地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などである。

研究協力者　授業者　草津市立草津第二小学校　教諭　三浦智也

松宮孝明　草津市立笠縫東小学校 校長